

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400052		
法人名	医医療法人 社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 京都下京の家 (1号館)		
所在地	京都府京都市下京区夷馬場町30番地1		
自己評価作成日	平成25年7月15日	評価結果市町村受理日	平成25年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2690400052-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と手をつなぎ安心、安全なまた暖かい共同家庭を作っていきます。限られた時間の中、職員の手作り料理を始め、週4回の入浴等は、アピール出来る。がすべての面に力点を置くことは不可能であるが、より全体的にレベルアップしていけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「地域と手をつなぎ、安心・安全な また暖かい共同家庭」との理念を掲げられ、運営推進会議を通して地域との関係が深められています。運営推進会議には行政をはじめ地域の役員等の参加があり、その時々々に食中毒や薬、防災についてなどテーマを決めて、保健センター職員や利用している薬局の薬剤師、消防職員等に来てもらい、地域の方々と共に学びえる有意義な会議となっています。また、職員は利用者と一緒に洗濯物をたたんだり掃除を行う中で利用者のできる事を活かした生活を支援したり、個々のペースで暮らせるよう配慮しています。管理者のリーダーシップの下、会議や日常的に活発な提案や意見交換がなされ、職員間で意見を出し合いながら利用者本位のサービスが提供できるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より玄関内の提示と各階居有スペースに、簡素化した標語をあげ、常に目に触れ認識を深めている。	開設時に職員間で話し合い「地域と手をつなぎ、安心・安全な また暖かい共同家庭」との理念を掲げ、玄関やリビングにわかりやすく掲示しています。職員会議や運営推進会議で理念が実践されているか振り返る機会を持っています。今後、現状に合わせて理念を見直していきたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来より近隣の挨拶を始め回覧板の回送、入居者散歩時の交流他、要望、苦情を聞いたりしている。	自治会に加入し、回覧板や自治会長から地域の行事等の情報を得て、地蔵盆や小学校の運動会を見に出かけています。近隣に散歩に出かけた際には、挨拶をしたり会話を交わすなど、日常的に交流しています。行事には踊りや手品等の地域のボランティアに来てもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地蔵盆の準備の協力や近隣の通りすがりの方の入居希望者の相談に応じてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃、お世話になっている行政職他、各専門他各専門職の方々の参加をお願いして各専門分野よりの意見、知識を頂きサービスに役立てている。	会議には家族や市職員、民生委員、老人福祉委員等多くの参加者を得て、隔月に開催しています。ホームの運営や行事、事故等の報告を行い、意見交換をしています。食中毒や薬、防災について等テーマを決めて、保健センター職員や利用している薬局の薬剤師、消防職員等に来てもらい、共に学び考える有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議、連絡会を通じて必要に応じて協力関係を築いている。何かあれば役所に出向き、相談したり情報収集している。	運営推進会議に市職員の出席があり、会議録や資料を持って行き報告したり、日頃から相談等に出向いています。市から研修案内がありできるだけ参加したり、介護マップの作成に当たって問い合わせがある等、良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	例外的に玄関の施錠は保安、安全の為としているが原則として身体拘束は発生してないしさせない方針。天候等により散歩、居場所の転換による気分転換を図る事などケアの一環を実践している。	職員会議の際に、法人幹部が身体拘束について職員にわかりやすく説明しています。ホームが街中にあり、安全のためユニット毎に鍵をかけていますが、外出したい利用者には思いに添い出掛けています。管理者は言葉かけが利用者の行動の制止に繋がらないよう注意し、不適切な対応があればその都度注意したり、カンファレンスで話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志内部けん制しながら、虐待防止を徹底している。また、そういう職員は、見当たらないが、出ない様に、当法人の講習の機会を得て万全を期している。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年に入り成年後見制度を利用される方がおられる様になり学ぶ機会が多くなり個々の、必要性を関係者と話し合いそれらを活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において今後誤解のない様に簡単明瞭解り易く金銭面を始め、緊急事態の対応、他、個別的問題を聞き説明納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当を始めケアプラン作成時、定期的嗜好食調査時他、随時聴取を通じて反映させている。	家族の面会時にゆっくりと話をし様子を伝え、意見や要望を聞いています。面会の少ない方には電話でコミュニケーションをとっています。散歩の希望を出された時には、散歩に出かけている様子を伝えたり、ドライブに行く回数を増やす等、その都度意見に応え支援に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従来より毎月定期会議、日々の職場での連絡事項を通じてお互いに提案、意見交換をおこなっている。	月に1度の会議では、職員全員が発言するように意識付けることで意見を言い易く、日常的にも気軽に提案し話し合っています。職員は申し送りノートを利用し意見を出しケアの統一を図ったり、行事を順番に担当し企画しています。職員の様子を見て、時には管理者が職員と面談を行い、意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は全職員の福利厚生面においても法人内の福利施設での関係各講習会やスポーツ親睦会や慰安旅行など気分転換w0含めた職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より一貫して統括法人の役職講習、他自己啓発のための講習資格の取得の奨励、それに付随する手当等職員組織全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会、交流会に参加し事例紹介や各施設での出来事等聞き視野、見聞を広げているが職員間の交流も拡大していきたい。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人様が不安、孤独感、緊張感があり、出来るだけリラックスできるように声掛けし、見守り、重要等意思の疎通を図り安心感を得て、いただける様につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が不安と感じてる点、要望を聞き、色々な事を傾聴しつつ良い関係を築けるようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の主たる要望を聞き、充分対応支援できることを説明する。慣れる雰囲気感じられるをまで、特に気を配り、個別対応を心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親しくなり過ぎず管理し過ぎず適当な距離を保ち家族的な和やかで笑顔のたえない雰囲気を作り心をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の再来訪を促し再来訪を促し、自由な自宅への外出、外泊において家族間の意思疎通を深め、3者関係において家人と共に本人を支援していく。++		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着をモットーに知人、親戚等の訪問や近隣への散歩を通じてできるだけ支援している。	友人の来訪があった時には、居室でゆっくりと過ごしてもらえるように配慮しています。百貨店等の懐かしい場所に出かけたり、以前住んでいた家を見に行っています。また、家族の協力を得て、行きつけの美容室や墓参り等にも出かけられるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂件居間の共有スペースにて各個人が自由に寛げるような雰囲気と職員が話題作り和やかに団欒できるよう支援。誕生日会、行事、レクレーションをし、利用者同士関わり、支え合えるように支援する。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設以来数名の方が入院退去、他施設への転居等それぞれの事情により終了してしまっただがやや疎遠になりつつある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人が暮らしてきた思いを踏まえ、本人の好きな物、又日常必需品の買い物を始め色々な希望を聞き、家族様、本人の意向を踏まえ、対応している。	入居時に本人や家族から意向を聞いたり、以前利用していた事業所等から情報をもらい、思いを把握しています。入居後には気付きノートを作り、日々の関わりの中で得た情報を記録に残し、思いの表現が困難な利用者についても会議等で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人、担当ケアマネより、の生活歴、趣味、職歴などの情報からこれまでの暮らしを把握し生活してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体力、病歴などを把握して散歩を始め、各自の出来る範囲の把握、理解に努め本人に負担の少ないように苦にならない程度の生活レベルを期待する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い暮らしをする為に本人、家族関係者と話し合い又随時書面や口頭にて意見情報聞き作成の素材としている。	本人の思いやアセスメントを基に、サービス担当者会議を開き、介護計画を立てています。会議には家族の参加の声をかけており、時折参加が得られることもありますが欠席の時には事前に意向を聞いています。実施状況を記録しやすいように様式を工夫し、3ヶ月毎に評価や再アセスメントを行い、見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りノート、軽か支援記録、介護日誌を通じて、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化やニーズにに対してその都度、臨機応變的に通院介助、付添、代行など多機能的に動いている。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	催しをするときにボランティアに来て頂き安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設嘱託医がいるが以前からのかかりつけ医との関係も大事にしながら緊急時など困った時に対応していただいている。	以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、継続している方は家族が受診支援を行い、家族を通して情報のやり取りをしています。2週間に1度協力医から往診に来てもらい、週に1度の訪問看護による健康管理を受け、24時間相談や対応してもらえる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託医を看護師による巻き爪爪切りや便秘に伴う浣腸など適時看護職サイドとも連携して頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医を通じ入院時にはホームでの生活様式、日々の体調などの情報を提供しバックアップをし入院見舞いを兼ね情報を聞き退院にそなえている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的にあり得る重度化、終末期のあり方について家族等主治医と話し合い方針を共有し連絡を密にし、火急時にお対応をしている。	ホームとして常時医療が必要となれば対応できない事を説明しています。看取りまでの支援は経験していませんが、利用者の状況の変化に合わせて、かかりつけ医の判断を仰ぎ家族に説明してもらい、ホームとしてできる事を話し合い、方針を共有し支援しています。法人の看取りの研修レポートを会議で検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急処置や防災体験、知識、情報の収集を視野に入れ奨励していくつもりである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年、2回の消防訓練で避難の方法を身につけるとともに今後いかなることにも対応できるように努力していきたい。	消防訓練は、消防署の立会いの下年に2回開催し、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導等を行っています。運営推進会議を兼ねて消防訓練を行い、自治会長等の参加を得る事ができています。また、近隣の方へは訓練の声かけを行っています。参加は得られておらず今後災害時の協力体制を築いていきたいと考えています。	

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当然の社会常識であるが入室時は必ずノック、声掛けをしてから入り、又、本人の希望、意向等に耳を傾ける。	接遇やマナーについては、法人の研修レポートを基にホーム内で勉強し、利用者に対して年長者としての対応し失礼のないことを基本としています。信頼関係ができ利用者に合わせた対応として、今まで呼ばれていた呼び方や言葉かけをすることもあります。不適切な対応があれば、その都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に笑顔で低い又は同じ目線よりややかりやすい表現にて本人に選択して頂くようにアプローチしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	色々な面でサービスを提示するも本人の意思を尊重し、無理辞意しない。又、日々の生活要望に対しても出来る限り希望にそう様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人の好みを踏まえ、選んで頂き好きなものを着て頂く。理容、美容面においては専用業者の訪問美容にて好きなスタイルにカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1番の楽しみは食事であり、新鮮な素材は基より品数も栄養バランス良く配膳。おやつは、職員の愛情豊かな手作りにて提供。誕生日、行事食は本人の好みを提供する。嗜好調査も実施。	業者から調理済の食事が届き、ホームで温めたり盛り付けをしています。週末の昼食は利用者で献立を決めて、一緒に買い物に行き食事作りをしています。利用者はおにぎりを作ったり、配膳や茶碗拭きなどのできる事に携わってもらっています。職員は一緒に食べていませんが、食卓で座って声をかけながら和やかな食事の時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつの飲み物は本人に希望をきき、お茶、コーヒーなど、お好みで。食事摂取も無理強いせず、本人のリズムにて摂取。又は体調不良の時は食事形態変更で対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、起床時、就寝時実行している。毎食後は、不完全である。入れ歯の着脱、清潔管理は、職員がほろしている。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを踏まえ、リハパンから布パンツに移行できる様に自立を視野にトイレまでの誘導、見守りを実行。	排泄の記録を基に利用者のリズムを把握し、仕草を観たり個々のタイミングに合わせてトイレに誘導しています。トイレでの排泄の習慣ができ失敗が無くなり、職員間で検討し紙パンツから布の下着に変更する等、利用者の状況を見ながら自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活での体動、散歩や食事的には繊維、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を食したりして便意を促しているがやむなく薬剤に頼るところがある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人浴にてゆっくりと入浴、洗身され出来るだけ自身で衣類の着脱、整容をして頂き、水分補給をする。	入浴は毎日午後に準備し、基本的な曜日を決めて週に3回入れるよう支援しています。希望に応じて入る順番や曜日を変更したり、その人のペースでゆっくり入ってもらっています。個々の好みのシャンプーやリンス、クリーム等を使用する方もおり、心地良く入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望にて午後の仮眠の自由や起床時、就寝時の時間管理を緩和して自室での寛ぎも大切にして自由性をもたせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在庫の服薬管理も少しずつ皆が出来る様になり誰でも対応できる様になりつつある。配薬時は、本人確認、責任感を持って誤薬をなくす。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の嗜好趣味を把握して、折り紙、漢字、計算、塗り絵等や洗濯物整理、軽手伝いを苦にならない程度に社会的共同参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩は常態化している。1人1人のその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。リフト車の度入もありどんどん戸外に出かけたい。	気候の良い時には、毎日希望を聞き散歩に出かけています。個別の希望を聞き買い物に出かけたり自宅を見に行く支援をすることもあります。秋には紅葉狩りにドライブを兼ねて遠出の外出支援も行っています。また、ホーム前のガレージにベンチを置き外気浴を楽しんでいます。	

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望や金銭トラブルの原因にもなる狩野性があるため職員が代行して買い物等をおこなうが、例外的に家族様納得のうえ少額の現金を所持して、自由に使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から定期的に便りがある方がおられる。他の方も便りが出来る様支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内外の換気、空調の管理を行い、又共有スペースにはカレンダーや、行事写真、又随時本人の希望を聞きつつ快適な生活が出来るようにしている。	共用空間は、利用者と一緒に掃除し清潔に保たれ、利用者同士の相性等に配慮し席を決めています。利用者に合わせて室温を調整し、冬には濡れタオルを利用し加湿できるようにしています。廊下の端に椅子を置き、外を見る方がいたり少人数で過ごせる居場所作りをしています。正月や七夕などの際には、季節を感じられる飾りつけをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間兼共有スペースにてその時の気持ちや体調を大切に生活空間の移動により気分転換を図り生活にハリ、変化の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今迄住み慣れ様式で過ごしてもらう為にタンス、着慣れた衣類を着て従来よりの生活様式を継続できるようにしている。	居室にはベッドが備え付けてあり、馴染みのものを持って来てもらうよう伝えています。使い慣れたタンスや机、テレビ等を置いたり、大切にしていた写真や位牌等を持って来ています。新聞を取っている方がおり居室で読んだり、猫の本やぬいぐるみを置くなど、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	奥内部はバリアフリーであるが一、各居室は本人の安全性を取り入れた低いベッドの利用。トイレ内に手摺設置。		